

## 修了式を迎えて

育成調教技術者養成研修 第29期生

### 「初心、そして向上心」

大蔵 美保子

1年間の研修は、決して順風満帆なものではありませんでした。上手くいかず悩んだり、怪我や体調不良で研修に参加できなかったり、時には気持ちが切れてしまうこともありました。しかし、こうして修了式を迎えることが出来たのは、「馬が好き」「もっと上手く騎乗したい」「もっと馬のことを良く知りたい」という初心を忘れなかったからだと思います。この気持ちは「向上心」に置き換えることが出来るかもしれません。

「向上心」とは「より良くあるとすること」。では、より良くあるためにはどうすることが必要か。

つらい時や苦しい時、少しでも進もうと努力すること。

何となく楽な方へ甘えてしまいそうな時、自らを律すること。

不安な時や消極的になりそうな時、「やらせて下さい」と言い切ることで自分に自信と責任を持つこと。

この3つではないかと私は考えます。自分が向上心を持って取り組んでいけば、例えば上手くいかないことがあったとしても、いつかチャンスは巡って来ますし、必ず成長できると信じています。事実、技術も知識も未熟で、ただ気持ちしかない私たちに、教官のみならず、JRAの職員の方々、諸先輩方は惜しむことなく指導して下さい、時に叱咤し、励まし、多くのチャンスを与えてくださいました。その中で私たちは少しずつ成長し、今、プロとしてのスタートラインに立っています。

しかし、視点が変わったからか成長するごとに自分たちの未熟さを感じることも多くなりました。現状に満足せずに各自が初心を忘れず、向上心を持ち続け、就職先の牧場だけでなく競馬サークル全体を支えることの出来る人材となれるよう更なる成長を目指していきたいと思います。



### 「新たなる目標に向かって」

光井 渉

私達第29期生は所定のカリキュラムを修了し、新たな環境の下で、一人の社会人、そしてホースマンとしての道を歩み始めようとしています。

ほとんどの研修生が乗馬未経験で、入講当初から慣れない事の連続で失敗ばかりの毎日でした。しかし、今思えば、そんな私達だからこそ日々の新しい発見や変化に感動し、馬に携われる喜びを感じ、意欲的に

研修に取り組めたのではないかと思います。

騎乗技術に関しては、速足のリズムさえ上手くとれずに何度も落馬したり、力任せな騎乗ばかりが目立った私達が、自分なりの課題を持ち、馬にとって何が最良なのか考えた騎乗ができるようになりました。厩舎作業においては、噛まれまいか、蹴られまいかと怯えながら行っていた手入れや曳き馬も、今では歩様の悪さや脚部の熱感などの馬の体調の変化にも気付き、対処できるようになりました。さらに、自分達の手で若馬の馴致、騎乗をさせてもらい、若馬の成長過程を肌で感じることでできた JRA 実習、実際に現場での仕事を体験させてもらった牧場実習等々、多くの貴重な経験をさせていただき、心身ともに大きく成長することのできた1年間でした。

BTC での研修は馬のことだけに没頭するには非常に恵まれた環境でした。多くのことを経験し、その中で多くの失敗や挫折もありましたが、その失敗があったからこそ、それを糧にして自分なりの答えを見つけ出し、次の機会に活かしていくことができました。そして、私達が悩み壁にぶつかったときには、いつでも手を差し伸べてくださった教官を始めとする BTC 関係者、JRA 職員の方々の支えがあったからこそ、1人の脱落者を出すことなく修了式を迎えることが出来たのだと思います。

私達21名は、恵まれた環境と沢山の人間に支えられて BTC 研修を修了します。しかし、研修の修了は通過点であり到達点ではありません。21名全員が無事卒業できたことに感謝しつつ、それぞれの牧場で、それぞれの夢、新たな目標に向かって邁進していきたいと思います。

## 「出発」

### 軽種馬育成調教センター 養成担当 山本 真維

2012年4月13日、育成調教技術者養成研修第29期生は、21名全員で修了の日を迎える事ができました。昨年4月に入講してきた彼らはどこか頼りなく、また、騎乗未経験者(馬に触れた事が無い者を含めて)がほとんどを占めていた様に“記憶して”います。記憶していますという言葉をここで使うのは適していないと思われるかもしれませんが、それほどに入講から1年間で彼らが成長し、入講当初感じていた頼りなさが微塵も感じられなくなったという事を表しています。もちろん騎乗に関しても同様で、入講時騎乗未経験であった者がいたとは思えない程に上達しました。

第29期生における騎乗訓練では、休日が重なるなどして、例年に比べ騎乗総数が若干減少してしまいました。しかしながら、訓練内容としては障害飛越や横木通過を多く取り入れ、走路騎乗以外でもさらに高度な技術を要求してきました。つい1年前まで馬と関係の無い世界にいた彼らには少し酷だったかもしれませんが、こちらの要求に答えるべく(若しくはそれ以上に)学ぶ気持ちを持って取り組んだ結果が、今の彼らの成長に繋がっている事は間違いなく、自身が持っている技術の範囲を越えたであろう要求にも諦めずに立ち向かい、1人も脱落することなく修了を迎えられたのは前進気勢旺盛な彼らだからこそであるの言うまでもありません。また、生活面でも非常に調和の取れた期生であったというのが特徴であったように思います。時としてライバルでありながらも、日常生活では仲間としてお互いを支え合いながら良い関係性を築いていました。

こんな第29期生ですが、あと一つ求めるならば、こちらからの指示に対する反応をもっとしてもらいたかったという事です。返事や挨拶は自分の意志を相手に伝える重要な手段ですが、若干苦手であったように感じます。それ故、彼らがこれから働いていく上で自分を表現することが上手く出来るのだろうか?という不安が少しばかり残りますが、彼らなら成長力を武器にしてすぐに上手く出来るようになるかと信じています。

修了を迎え燃え尽きるのではなく、新たなスタートとして日々技術の向上を目指し、競馬業界を担う技術

者として名を馳せてくれることを願っています。

最後になりましたが、第29期生の修了にあたりご協力いただきました関係者の方々に、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。また今後ご指導・ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

